



## 八ヶ岳南麓の優良農地を守る

～そばの種蒔き作業が始まる～

北 杜市大泉町のいずみそば組合(浅川重雄理事長)で、7月中旬よりそばの種蒔き作業が始まった。

いずみそば組合は平成15年に有限責任中間法人(その後、一般社団法人に改組)として設立され、先祖が拓いてきた優良な農地を守るため、旧大泉村の休耕田の転作として地域の農家154人でそばの共同栽培に取り組んできた。その後、認定農業者でなければ休耕田の転作補助金受けられなくなる制度変更があり、栽培者全員が認定農業者になることはできないことから、平成27年に新たに設立した農事組合法人を認定農業者として、そばの栽培を続けてきた。



おじ蒔き機による種蒔き作業

今年の種蒔き作業も7月中旬から8月初旬にかけて約51畝に種蒔きを行い、10月初旬から下旬にかけて刈り取りを行う計画となっている。そばは品質によって4つの等級ごとに転作補助金単価

に差があるが、いずみそば組合のそばは最上位の1等級に分類され、昨年は全体で21トンを超える収穫があり、県内外のそば店等に出荷されている。

組合では、平成20年前後の盛期には大泉全体の農地の1/3を占める76畝でそばの栽培を行っていた時期もあったが、高齢化による栽培者の減少により栽培面積が減り続けている。また、最近の気候変動の影響で、花から種が結実する9月に長雨に見舞われることが多く、収穫量も落ちる傾向にある。

組合の事務局を担当している千野守彦さんは「大泉地域は八ヶ岳南麓で農地が比較的まとまっていることから共同での栽培に取り組みやすかったが、高齢化により耕作ができない農地が増えていくことが予想される。いずみそば組合は大型のコンバインなどの機械を所有し広大な面積で農業を行ってきた経験を活かし、効率的な農業を進めながら若手の栽培者の参加を促すことで地域全体の農業を担えるような仕組みづくりに貢献していきたい。」としている。



八ヶ岳をバックにしたそば畑